確定的出生前検査　絨毛検査　説明同意書

絨毛染色体検査

1. 方法

事前に超音波で胎児、胎盤の位置を観察した後に採取方法を以下の(1)～(3)から決定します。子宮・胎盤の超音波での見え方は容易に変わるため直前で採取法が変更になる可能性があります。

(1) 経腹穿刺法　(2)経腟穿刺法　(3)経頚管採取法(吸引)

※原則、静脈麻酔下で実施しますが、侵襲や難しさの程度が小さければ覚醒下で実施します。

検査後、約 2-3 時間は院内で待機していただき、診察後に帰宅となります。

2. 検査リスクについて

(1) 胎児、胎盤や筋腫の位置、局所的な子宮収縮で、数回実施しても絨毛が採取できないことがあります。その場合には日程を改め、胎盤の成長を待って再度実施することがあります。

(2) 稀に検体に母体血が混入することで、結果に影響が出ることがあります。(結果がモザイクとなる、結果が出るまでに日数がかかる・結果が出ないなど)

(3) 検査後に出血、破水、感染や流産に至る可能性が約 0.3%(1/300) あることが報告されています。

3. 検査法（原則(1)、(2) まで実施します。)

(1) QF-PCR 法：NGS(次世代シーケンサー)を用いて異常発生頻度が高い 13.18.21 番と X,Y 染色体の数を確認する迅速スクリーニング検査。（結果:1-2 日）

(2) D-karyo 解析：NGS を用いて G-band 法より微細な染色体の変化を検出するスクリーニング検査。倍数体の変化や均衡型構造異常は検出できず、異常の場合追加で microarray 解析が必要。（結果:1 週間）

(3) G-band 法: 全ての染色体を Giemsa 分染後に顕微鏡で目視し、倍数体変化と均衡型を含む構造異常が分かる。細胞培養を要し、検体過少や培養不良等の理由で結果が出ないことがあります。(結果:2 週間)。

※検査項目について※

胎盤の位置によっては、絨毛（じゅうもう）を十分に採取できないことがあります。

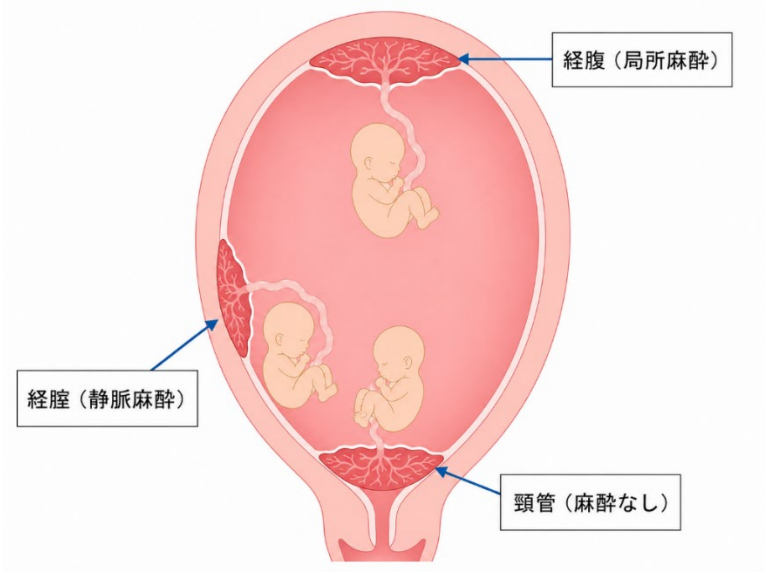
母体と赤ちゃんの安全を最優先に考え、採取を途中で中止することもあります。

その場合、検体の量が足りず、「(3) G-band 法」という検査が行えないことがあります。

4. 絨毛検査の限界

(1) 胎盤性モザイク：絨毛検査では胎盤の絨毛染色体を検査します。胎盤と胎児は同じ胚から発生しますが、厳密に言うと全く同じ染色体ではない場合が稀にあります。そのため結果がモザイクであった場合、16 週以降での羊水検査を提案することがあります。

(2) 先天性奇形の可能性：絨毛検査含め出生前検査は、上記検査法の特性上、比較的大きな異常 (数や構造) のみの検出するものです。小さい単位での遺伝子変化/異常は判明しないため、絨毛検査を実施しても一般集団と同様、先天性奇形が 3%程度で発生します。



5. 検査費用

QF-PCR 法、D-Karyo 解析　　20 万円（税別）

QF-PCR 法、D-Karyo 解析、G-band 法　　25 万円（税別）

（検体の量が不足して「G-band 法」の検査ができなかった場合は、その分の差額を返金いたします。）

※入院の場合、入院費は別途必要　（1 泊　10,000 円：税別）

※多胎（胎盤が複数個）の場合は検査件数×20 万円（税別）となります。

セントマザー産婦人科医院

院長　田中　温　殿

私たち夫婦は、医師からの説明および説明同意書の内容をすべて読み、内容について理解し納得しました。不明点や不安な点は質問し解決しています。リスク、副作用、費用についても理解し納得しましたので、絨毛検査を希望します。

日付：　　年　　月　　日

住所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

夫氏名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

妻氏名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

説明医師：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿